

公開講演会を本支所等で開催



今年度の公開講演会を本所、各支所、多摩森林科学園が連動し、10月後半に開催しました。

本所

10月17日（金）、イイノホール（東京都千代田区）にて「森を創る女性力と地域力」をテーマに行ないました。まず、理事長挨拶（写真上右）により「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創るため女性力と地域力に着目したことや、従来の枠にとらわれず新しいテーマに挑む研究成果を紹介したいとの開催趣旨が述べられました。続けて8名の演者による講演が行なわれました。250名を超える来場者は熱心に聞き入るとともに、多くの質問も寄せられました（写真上左）。中でも、「里山資本主義」で名を知られる藻谷浩介氏による講演「データから見える林業の未来」（写真下）では、森林資源の有効な使い方とその経済効果が理論的に説明され、会場では大きくうなずく姿が目立ちました。

北海道支所

17日、「動く森林」と題し札幌市エルプラザに100名強の参加者を迎え開催。森林の更新や長期変動に関する4講演を行い、長期データの集積や息の長い研究の重要性をアピールしました。

東北支所

28日、岩手県情報交流センター・アイーナホールにて、東北支所・東北育種場・東北北海道整備局が合同して、「東北の未来につなぐ森づくり」とのテーマで実施。東日本大震災からの復興と林業の復活に向けた多様な成果を100名を超す参加者に紹介しました。

関西支所

17日、キャンパスプラザ京都にて「森のなか、シカが増えすぎて…」とのテーマで3講演が行われました。200名近い来場者から、シカに関する質問が多く寄せられ、あらためてシカの食害問題の重大さがうかがわれました。

四国支所

17日、高知会館にて「ともに考えよう！ 豪雨・急傾斜地に適した森づくりと伐出システム」とのテーマで実施。四国の豪雨・急傾斜という厳しい自然条件に適した人工林の管理技術の開発を目的とする6件の研究成果を約90名の参加者に報告するとともに、パネルディスカッションにより議論を深めました。

九州支所

28日、くまもと県民交流館パレアにて「九州地域の林業活性化に向けて」をテ

ーマに九州森林管理局と共催。森林伐採が及ぼす様々な影響や、薬用樹木の効率的生産に向けた取り組みやエリートツリーを活用した林業などを発表しました。約100名の来場者から質問が活発に寄せられ、終了予定時刻を過ぎるほど盛況でした。

多摩森林科学園

18日、多摩森林科学園・森の科学館（東京都八王子）において「シカの脅威にさらされる日本の野山」のテーマで開催。シカと森林の関係が江戸時代からの資料を交えて解説されました。会場を満員とした約50名のから熱心な質問が相次ぎ、関心の高さがうかがわれました。



農林水産大臣賞受賞

当所の大平辰朗樹木抽出成分研究室長が「第12回産学官連携功労者表彰」つなげるイノベーション大賞」における農林水産大臣賞を9月12日に受賞しました。

この受賞は、当研究所と日本かおり研究所株式会社による共同研究「トドマツの枝葉を利用した空気浄化剤の開発」において、大平室長らによる研究成果が基盤となり、短時間で効果的に空気を浄化するとともにリラックス効果等も備えた全く新しい発想の空気浄化剤が開発されたことなどが高く評価されたもので、平成23年度の「厚物構造用合板（ネダノン）の開発」に次ぐ2度目の栄誉となりました。

当研究所は異業種間の企業等との連携を今後も進めて参ります。



表彰状授与の様子



鈴木理事長を中心に日本かおり研究所の金子社長(左)と大平室長(右)

イベント2件で ウッドクラフト出展

第7回「うしくみらいエコフェスタ」(10月19日(日))と森林総合研究所林木育種センターの一般公開「第19回親林(しんりん)の集い」(10月25日(土))のイベント2件にウッドクラフトを出展しました。

10月後半のイベントであることから、松ぼっくりを用いたクリスマスツリーに色を塗ってもらう参加型のウッドクラフトを企画しました。当初の予想を上回る人気を得、両日併せて400個を上回るツリーを提供することができました。イベント参加者に森林や木材を身近に感じていただくため、今後多くの人に楽しんでもらえるウッドクラフトを用意していく予定です。



うしくみらいエコフェスタ



親林の集い

「もりの展示ルーム」 夏休み公開

この夏7月19日(土)から8月31日(日)まで連日無休で、「もりの展示ルーム」の夏休み公開を実施しました。季刊「森林総研」26号の特集と連動した企画展「小笠原諸島 世界遺産を守る」を開催し、小笠原の生態系や外来種の問題などの研究成果、カミキリムシの標本等を展示しました。生きたカブトムシを触ることができ、コーナーを今年も設置し、多くの子供達に楽しんでもらいました。樹種による木材の重量の違いを実験に体験する展示やシロアリの行動を調べる実験などにも沢山の参加があり、来場者総数は約4600名と大変賑わいました。

今後多くの方々に楽しんでいただけるよう、展示を工夫してまいります。



カブトムシコーナー



林 知行

秋田県立大学木材高度加工研究所
所長・教授

私が林業試験場に入所したのは1982年でしたから、32年前のことになります。当時と比べてみると、森林総研内部の組織も文化も様々な形でスクラップ&ビルドされてきました。その多くは、世の中の流れに対応して変遷してきたものでしょう。

しかし、中には「金の切れ目が縁の切れ目」のような形で、消失してしまったものもあります。いくつかの例が思いつきますが、木材利用関係のOBとして特に再構築してほしいのが、地方公共団体との関係です。かつて木材利用関係では、都道府県との連携が大変緊密でした。都道府県の研究職のみならず、行政職の方も中長期の研修にたくさん来られていました。また、関連の予算があり、会議等で情報交換も盛んに行われていました。どこの地域にどういった研究者や技術者がいて、どんな仕事をしているかが、広く情報共有されていたのです。

翻って昨今の状況は実に寂しい限りです。かつて木材学会・会員名簿後半の「わが国の木材関連研究組織と研究内容」の編集に携わっていたのですが、見知らぬ名前があまりにも多くて、ガックリしたことがあります。この業界に長年巣くってきた私でさえそんな状態ですから、中堅や若手ならなおさらでしょう。なお、ブロック会議の繋がりは、木材関係については残念ながら脆弱なものでしかありません。

というようなわけで、手段は問いませんが、森林総研を中心にした人的情報ネットワークの再構築を是非お願いしたいと思います。

森林総合研究所研究報告



Vol.13-No.3 (通巻432号)
2014年9月発行
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/>

論文

焼畑農地のパラゴムノキ林転換には気候変化を緩和する機能があるか？ 北部ラオスにおける事例研究(英文)

清野嘉之、古家直行、藤田直子、佐藤保、松本光明、Soukath BOUNTHABANDID、Somchay SANONTY
オゾン耐性遺伝子組換えポプラの耐乾燥性および耐塩性(英文)
古川原聡、毛利武、伊ヶ崎知弘、中嶋信美、篠原健司
クリ無欠点小試験体の強度的性質
— 曲げ、縦圧縮、せん断、めり込み—
井道裕史、三浦祥子、長尾博文、加藤英雄

特集：森林の放射能測定調査法(研究資料)

森林生態系における樹木・木材・土壌・渓流水の放射性セシウム動態調査法の利用ガイド
高橋正通、梶本卓也、高野勉、池田重人、小林政広
森林生態系における樹木・木材の放射性セシウム分布と動態の調査法

梶本卓也、高野勉、齊藤哲、黒田克史、藤原健、小松雅史、川崎達郎、大橋伸太、清野嘉之
森林土壌の放射性セシウム分布と動態の調査法
池田重人、金子真司、赤間亮夫、高橋正通
森林流域から流出する放射性セシウムの調査法
小林政広、坪山良夫、篠宮佳樹、池田重人

編集後記

今回の特集は今を時めくCLTです。今後の発展をお楽しみにして下さい。

前号に続き、本誌紙面の刷新を進めました。今号では表紙口ゴタイプと目次などのデザイン変更と増頁による新記事追加を行いました。大きな変更はこれで一区切りですが、よりわかりやすい広報誌とするため随時改善を続けます。皆様から頂戴するご意見は大変参考になりますので、お気づきの点を、kanko@ffpri.affrc.go.jp までどしどしお寄せ下さい。

(企画部 研究情報科 森澤 猛)

編集委員：小泉透 市田憲(認定NPO法人 才の木) 森澤猛 辻祐司 野畑直城 高梨聡 浦野忠久 高野麻理子 高麗秀昭 田中巨

表紙の写真：CLTと人間の対比 裏表紙の写真：CLTを使用して建設中の建物